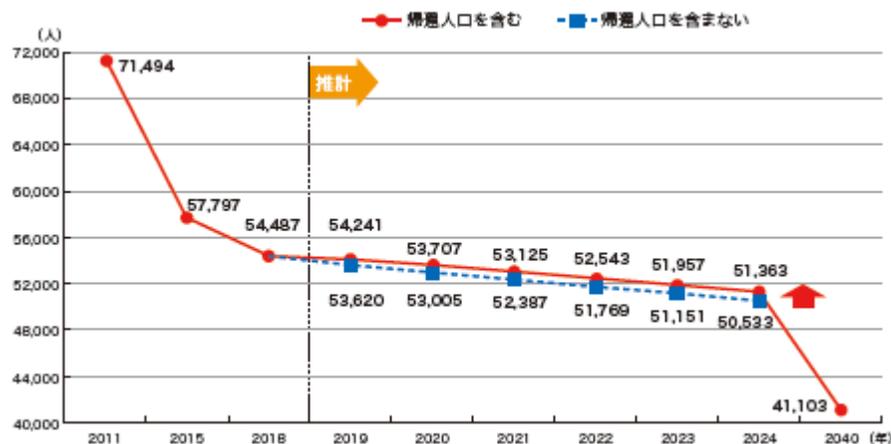


南相馬市の現状

1 南相馬市の人口の推移と推計

本市の人口は、震災と原発事故により減少傾向に拍車がかかり、2011年から2015年にかけて避難や転出等により大きく減少しました。

2018年以降の人口推計は、復興事業の進捗に伴う市民生活の再建状況が、市全体の帰還人口に影響が及ぶものと見込まれており、2024年頃まで5万人規模を維持し、その後減少が続き 2040年には4万人規模になることが推測されます。



2 南相馬市の年齢別人口比率の推移と推計

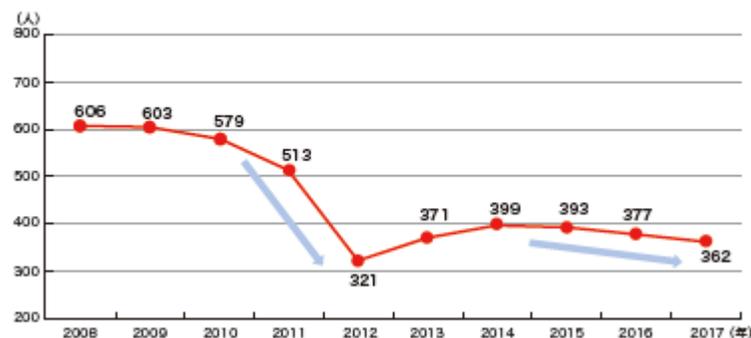
本市の年齢別人口比率の推計は、年少人口と生産年齢人口の減少に伴い、2040年には老年人口比率(46.1%)が生産年齢人口比率(45.1%)を上回ることが推測されます。



3 南相馬市の出生数の推移

本市の出生数の推移は、2011年以前は年500人を上回りましたが、震災と原発事故以降は、年間400人に満たない状況にあります。

出生数の推移



4 南相馬市の産業別就業人口の推移

産業別就業人口の総数は、1995年から減少が続いています。

産業別で見た場合、第1次産業は2010年から2015年にかけて半減する一方、第2次産業は増加に転じています。また、第3次産業は2005年から減少が続いています。



震災と原発事故からの復旧・復興の進捗と新たな課題に対応するため、今後、南相馬市が推進すべき施策を示した「南相馬市復興総合計画 後期基本計画」を策定

計画の位置付け

- 「南相馬市復興総合計画」は、本市の未来のあるべき姿と取り組むべきまちづくりの方向性を示した、総合的かつ基本的な指針である**最上位計画**

計画期間

- 後期基本計画では、復興に向けていち早く新たな取組を実施するため、着手を当初2020年度の予定から1年前倒しするとともに、計画期間を**2019年度～2022年度までの4年間**に改め、取組を進める。

計画の構成

- 「南相馬市復興総合計画」は、市の将来像や基本目標などを示す「**基本構想**」、市が推進すべき施策を体系的に示した「**基本計画**」、具体的に実施する事業を定める「**実施計画**」の3層で構成



復興重点戦略① 旧避難指示区域の再生

帰還した市民が安寧に住み続けられ、帰還して良かったと思える旧避難指示区域の再生を推進します。

更なる復興加速に向けて、教育・子育て環境の充実、安全・安心な生活環境の整備、農業の復興、医療体制の整備、まちのにぎわい創出などに取り組みます。

また、旧避難指示区域の再生には、旧避難指示区域外を含む市全域の復興が必要であることから、引き続き市全域の復興の取組を進めます。

主な取組方針

- ◎文教ゾーン¹⁷を生かした魅力ある教育と子育て環境の整備
- ◎地域医療体制の充実
- ◎賠償全般の問題解決への支援
- ◎営農環境の再生と生産者の育成
- ◎買い物環境の維持・再生
- ◎スマートインターチェンジの整備促進
- ◎交通弱者の移動手段の利便性向上
- ◎地域コミュニティ活動の活性化 など



平成31年度の主な事業

- 【新】旧避難指示区域内帰還者支援事業
旧避難指示区域内への帰還支援のため、帰還した市民が移転に要した費用に対し、補助金を交付
- 【新】子どもの遊び場整備事業
小高区内に子育てしやすい環境を構築するため、子どもが安心して遊ぶことができる施設を整備
- 小高区街なか賑わい創出事業
多世代の交流拡大や地域活性化のため、小高交流センターにおいて高齢者向けのヨガ教室、親子料理教室など様々な事業を実施
また、送迎を行うことで、利用しやすい環境を整備し、センターを中心に賑わいを創出する。
- 【新】旧避難指示区域内店舗営業支援事業
旧避難指示区域内の復興を推進するため、日常生活に必要なサービスを提供する事業者に対し、運営経費の一部を補助

復興重点戦略②

福島ロボットテストフィールドを核とした 新産業創出と人材誘導

世界に冠たるロボットの研究・実証拠点である福島ロボットテストフィールドを最大限活用し、国内外の優秀な研究者や人材が集う環境整備を推進します。

また、福島ロボットテストフィールド周辺環境の整備に取り組みます。

さらに、市外から訪れる研究者、ロボット関連企業と市内企業・団体、市民が交流する機会を創出し、人材誘導、市内企業の技術革新や産業集積、ベンチャー輩出等を推進します。

主な取組方針

- ◎ロボットをはじめとする先端技術等を強み産業へ育成
- ◎ロボットの実証実験・導入等の促進
- ◎工業基盤の整備と企業立地の推進
- ◎ロボット関連企業や大学等との連携強化
- ◎小中学生のロボット教育¹⁸の推進と高等教育機関との連携
- ◎福島ロボットテストフィールドの認知度向上
- ◎研究開発・先端技能育成等基盤技術産業の高度化
- ◎福島ロボットテストフィールド等を組み入れた新たな観光ルートの創設
- ◎主要アクセスポイントと拠点をつなぐアクセス道路の早期整備の実現
- ◎都市間交通の整備 など



復興賃貸事業所イメージ



郵便局間ドローン目視外輸送(日本郵便)

平成31年度の主な事業

○復興賃貸事業所整備事業

ロボット関連事業者等を市内に誘導し、ロボット産業等の集積・新たな雇用の場の確保により地域産業の復興の加速化を図る。

○産業支援センター運営費補助金

中小企業者の経営革新、創業支援及び産学連携のコーディネートや、福島ロボットテストフィールドの整備に向けた市内企業の支援

○ロボット実証実験支援事業補助金

ロボット施策を推進するため、ロボット実証実験を行う事業者、大学、研究機関、団体等に対して助成金を交付

南相馬市の重点戦略

政策目標を達成するために複数の政策の柱にまたがるテーマに対して横断的・複合的に取り組む4つの重点戦略

重点戦略① 子育て世代に選ばれるまち

- 戦略の方向性**
- 子育て中の世代やこれから子育てをしようとする若い層が、安心して出産・育児ができる環境の整備
 - 家庭と仕事両立できる環境の充実
 - 幼児教育も含めた教育の質の向上と、子どもたちが伸び伸び成長できる環境整備

重点戦略② 多様な人材が活躍するまち

- 戦略の方向性**
- 若者、女性、高齢者、障がい者、移住者など、多様な人材が安心して働くことができる環境の整備や支援
 - 外国人の受け入れ環境の整備

重点戦略③ 健康づくりが盛んなまち

- 戦略の方向性**
- 子ども、働く世代、高齢者の全世代を通じ、食事、運動、健康診査の実施体制を確立し、市民総ぐるみの健康づくりの運動を展開
 - 市民が主体的に取り組む健康づくりを地域や職場で支えるための支援等に取り組み、健康寿命を延伸

重点戦略④ 一円融合のコミュニティづくり

- 戦略の方向性**
- 報徳仕法の教えを地域のコミュニティづくりに生かし、地域の良さを生かす地域活動を推進
 - 市民の地域活動への参加意欲を醸成し、地域活動の活性化への支援を実施

今後の課題等

■ 旧避難指示区域等の再生

- 旧避難指示区域内の水田における営農再開割合は、震災前と比較して5%程度であり、小高区のほ場整備は、ほとんどの地区で基盤整備工事の着手がこれからであり、すべての地区において2021年度以降も事業が継続。
 - 教育施設が集中する小高区中心部（文教ゾーン）において、福島ロボットテストフィールドと小高小・中学校、小高産業技術高校の連携による人材育成を含めた、教育施設の整備・活用による教育・子育て環境の充実が必要。
- ⇒ **ほ場整備事業完了までの継続した支援 と 魅力ある教育・子育て環境への支援**

■ 主要アクセスポイントと拠点をつなぐアクセス道路の整備

- 福島イノベーション・コースト構想の実現のため、重点推進計画に基づき、常磐自動車道のインターチェンジから各拠点へのアクセス機能、及び各拠点間を結ぶアクセス道路網の強化を図ることが重要。
- ⇒ **福島ロボットテストフィールドと南相馬インターチェンジを結ぶインターアクセス道路の早期整備への支援**

■ 地域医療・福祉の充実と人材確保

- 医療機関では病院の病床数が震災前に比べ約5割、診療所数でも約2割減少。医師や看護師等病院の医療スタッフ数についても約3割減少。
 - 福祉関係では、要支援・要介護認定者が震災前に比べ2割程度増加。介護スタッフ不足により全面稼働できない施設もあり。
 - 保育園では保育士が確保できない状況が続いており、それに伴い待機児童が発生。
- ⇒ **医師・看護師・薬剤師・介護士・保育士等の人材確保の支援**